

和歌山大学における公開授業

吉田 雅章
(和歌山大学経済学部)

The "Open Class" held at Wakayama University

Masaaki Yoshida
(Faculty of Economics, Wakayama University)

Summary

This is a report on the "Open Class" which has been held at Wakayama University as an FD project. This project is open to those who are concerned with higher education, and a discussion session is held after every class. This "Open class" gives lecturers and observers the chance to develop their interest in higher education together. This project has been held with reference to the "Open Laboratory Class" at Kyoto University Research Center for Higher Education. Though FD forums and the student evaluations of instructors have been held at Wakayama University, the author considers the "Open Class" as the most effective FD activity for the sake of the promotion of FD.

はじめに

近年、多くの国立大学でFD（ファカルティ・ディベロップメント）への取り組みが注目されている。和歌山大学においては、平成10年3月より組織的にFDを推進し、講演会の開催や報告書の作成など様々な取り組みを展開した。その中でも公開授業とその検討会を最重要活動と考え、平成11年6月より平成14年7月までに18人の教員により全部で25回の公開授業を開催した。平成14年度終了時点では37回となる予定である。

筆者はFD活動の中でシラバスの作成・充実や学生による授業評価以上に公開授業&検討会が授業改善に効果的であると考えており、本稿は和歌山大学で開催した25回の公開授業を振り返り、分析・検討するものである。以下においては、まず、和歌山大学におけるFDの組織化とその中での公開授業の位置づけについて述べる。次に、公開授業開催の経緯と初期段階（第1回から第5回まで）の暗中模索について言及する。そして、徐々に軌道に乗り始めた第6回から本稿執筆時点の最終回である第25回までを振り返り、最後に分析と検討を加える。

なお、京都大学高等教育教授システム開発センターは、国立大学の中で最初に公開授業（正確には公開実験授業）を開催し、田中毎実教授をはじめとする全教員がこれに関する論稿を精力的に発表されている。しかし、その他の大学で、とりわけ和歌山大学のように小規模の国立大学で、公開授業と検討会を開催し、分析した研究はあまり存在せず、本稿はこの点において有意義な存在となることを狙ったものである。

1 和歌山大学のFD活動における公開授業の位置づけ

和歌山大学は教育学部・経済学部・システム工学部の3学部から成り、平成14年4月の入学者数が950名の比較的小規模な国立大学である。その和歌山大学が平成10年3月よりFDの組織化に取り組み、その文脈において公開授業をどのように位置づけたのかについて概観する。

まず、平成10年3月、和歌山大学FD研究会が組織された。学生部長と各学部から1名ずつ、基礎教育運営委員会

から1名の計5名で出発することになった。事務は学生課が担当し、課長・課長補佐・担当専門職員が常に補佐してくれた。

平成10年度は、上記FD研究会がFDの意義を研究し、具体的にどのような活動をすべきかを検討した。そのために、京都大学高等教育教授システム開発センターやメディア教育開発センター、大学セミナー・ハウス、神戸大学大学教育研究センター、大学コンソーシアム京都などが開催するFDプログラムにのべ16回参加し、その成果を「FDだより」や『平成10年度和歌山大学FD報告書』にまとめた。平成10年11月には神戸大学の川嶋太津夫教授を招聘し第1回FD講演会を開催した。

平成11年度からは和歌山大学FD研究会が和歌山大学FD推進委員会に発展的に解消された。同委員会は学生部長、各学部から2名の委員、大学教育委員会と基礎教育委員会から各1名の計9名で構成された(なお、平成13年度は各学部から3名ずつ、平成14年度は各学部から4名ずつ選出されており、徐々に委員数を増やしている)。

平成11年度は、メンバーが平成10年度同様に上記の他大学等のFDプログラムにのべ27回にわたり参加する一方、筆者が担当する講義「日々の暮らしと法律」のうち5回を公開授業とし、毎回5名〜8名の参加者による検討会を開催した。その結果は、第2号から第4号の「FDだより」と『平成11年度和歌山大学FD報告書』にまとめた。5回の公開授業&検討会の中、3回にわたって京都大学高等教育教授システム開発センターの先生方にゲストコメンテーターとしてお越しいただいた。第1回目の検討会は後述するように散々な結果であった。しかし、2回目以降の参考になった。すなわち、ビデオ撮影、カセットテープレコーダーによる録音、ティーチングアシスタントの雇用などに着手するきっかけとなったからである。なお、平成11年10月には京都大学の田中毎実教授を招聘し第2回FD講演会を開催した。平成11年度は和歌山大学におけるFDの萌芽期という状況であった。

平成12年度のFD活動は、他大学のゲストに依存するFDから和歌山大学の教員を中心とするFDへと転換を図るものであった。すなわち、従来通り他大学等への情報収集を行い、5号〜7号の「FDだより」と『平成12年度和歌山大学FD報告書』を作成し、次の3つのイベントを開催した。4月に和歌山大学FDフォーラム(各学部3人の報告者による私の授業改善)、11月に和歌山大学FDシンポジウム(県立高校の先生の参加があり、学生を取り巻く環境について論議した)、平成13年3月に和歌山大学FDワークショップ(メディア教材を利用した授業改善について)を実施し、以上の3イベントにはゲストの他に外部の参加者があった。これは事務方の十分なるフォローの結果であり、学生部全体のバックアップの賜物であった。そして、平成12年度の公開授業は、5人の教員が1回ずつ授業を公開する形態をとった。基礎教育科目1回と専門教育科目4回の計5回実施し、そのうち4回は授業検討会を開催し、前年度同様京都大学高等教育教授システム開発センターの2人の先生にゲストコメンテーターとしてお越し願った。

平成13年度、FD推進委員会が主催しての公開授業&検討会は12回である。NHK取材のために大学本部事務局より強く要請され、急速対応したもの1回と、「魅力ある大学授業を研究する会」が主催したもの1回を加えると全部で14回となる。このほかに8・9号の「FDだより」と『平成13年度和歌山大学FD報告書』の作成、11月の第2回和歌山大学FDフォーラムの実施があった。この年度より和歌山大学におけるFD活動の中心は公開授業&検討会の開催へと明確に移行したといえよう。

なお、本稿執筆時点である平成14年度の和歌山大学におけるFD活動は7月5日の公開授業&検討会のみである。これは、従来FD推進経費を4月より執行できていたのに、当年度より同経費が無くなり、後期に大部分の活動を集中せざるを得ないからである。ただし、予定ではあるが、年間で13回の公開授業&検討会を開催することになっている。

2 初期段階の公開授業(開催から第5回まで)

公開授業&検討会実施のいきさつは次の通りである。すなわち、藤田利光元学生部長(学生部長のポストは平成12年度末に廃止され、教務学生担当の副学長が学生部長の任務を承継している)の提唱に基づき、平成10年3月より和歌山大学FD研究会が発足し、FDの意義を調査することになった。そして、FDに関する先進校に教えを乞うこととなり、平成10年6月1日、京都大学高等教育教授システム開発センターへ伺い、石村雅雄助教授より京都大学におけるFDに関する説明を受け、引き続き田中毎実教授の公開実験授業を参観させていただいた。そして、平成10年度は和歌山大学FD研究会のメンバーのべ10名が京都大学の公開実験授業とその検討会に参加した。その間、石村助教

授より筆者に対して、筆者の授業を参観したい旨のメールがあり、このことをFD研究会で報告すると、京都大学を参考にして公開授業を開催し、京都大学高等教育教授システム開発センターの先生方に検討会の講師としてお越しいただき、そのノウハウをご披露していただこうと、藤田元学生部長が話を広げたのが平成11年度の公開授業のきっかけであった。また、平成11年度の第1回FD推進委員会で、公開授業の実施がFD研究会からの引継ぎ事項であると報告すると、極めて興味深い試みであり、できるだけ早く実現させるべきであると、一部委員が推奨したことが公開授業実施、それも前期の6月実施への大きな原動力となった。

従って、公開授業実施に当たっては京都大学高等教育教授システム開発センターの公開実験授業を大いに参考にした。実際、筆者は平成10年度と11年度とで合わせて20回以上参観させていただいた。そこでの収穫としては、FDの認識、FDに取り組む諸機関の存在、授業改善に熱心な教員の存在、他人の講義を参観することの意義、「何でも帳」(双方向性を確保する授業ツール)、検討会の実施、授業評価、ビデオ撮影、リレー形式の講義(平成11年度以降)などについて考えさせられたことなどをあげることができる。ただし、京都大学では和歌山大学よりも3年早く着手されており、その経験やノウハウをそのまま移植することはもちろん不可能であり、実際、第1回公開授業とその検討会でまざまざと実感させられた。

平成11年度に実施した5回の公開授業&検討会はまさにその初期段階のものであり、暗中模索の連続であった。公開授業とした「日々のくらしと法律」は、前期は経済学部夜間主コースを対象として、後期は全学部を対象として、基礎教育科目(教養科目)と位置づけて開講した臨時開設科目であった。そのうち、6月24日・10月21日・11月4日・11月25日・12月9日を公開授業として実施した。参観者はおおむね10~15名で、検討会の参加者は5~8名で、予想よりも極めて少なかった。さまざまな原因が考えられるが、個人的にたずねたところでは、参加すれば公開授業をしてくれと依頼されるのが怖いという声が多かった。

第1回公開授業は、6月24日(木)の9・10限(17:30~19:00)に経済学部講義棟3階E-302教室にて実施した。当日のテーマは「交通(自動車)事故と損害賠償」についてであり、授業後、約1時間にわたり検討会を開催した。検討会の出席者は、守屋前学長、木内元学生部長、FD推進委員会委員の水田・亀山・菊川・森口各教官で、学生課長および学生課諸氏に事務をお願いした。当初、授業後の検討会は、本部・事務局3階の共通会議室で実施する予定であったが、くつろいだ雰囲気でするのが良いという守屋前学長の好意により、同2階の学長室にて実施した。

なお、公開授業における受講学生の出席数は44名で、ほぼ普段通りである。ちなみに全登録者数は61名であった。そして公開授業の参観者数は13名で、やや少ないかもしれない。当日かなり激しい雨が降っており、その影響が大きかったと思われる。また検討会の参加者数は上述のように7名で、守屋学長・木内学生部長以外は、FD推進委員会委員ばかりであった。横の広がりには欠けており、参加者数をいかに増やすかが今後の課題として散会した。

検討会では、事前に実施した学生による授業評価の結果を報告した後、授業者以外の教員による評価、検討会の議論をどう進めるか、今後、公開授業をどう展開するか(例えば、他の教員にも実施を依頼する)などについて意見が交わされた。残念ながら、実施時間が夕刻で皆疲れており、ビデオテープも録音テープも無く正確な討議内容は定かではない。この反省を基に、後期の公開授業と検討会には、ビデオカメラとカセットテープレコーダーを用意することになった。そして、新規にデジタルビデオカメラを購入し、その操作を和歌山大学大学院経済学研究科修士課程2年(当時)の堀内貴史君に依頼することになった。

第2回から第5回の公開授業&検討会は下記の通りであるが、第1回での経験より検討会議事録を作成し、『平成11年度和歌山大学FD報告書』にまとめた。

第2回 10月21日(木) 7・8限(14:50~16:20) 実施

場所 基礎教育棟1階 G-101教室

「自動車事故と損害賠償」について

授業後、田中毎実京都大学高等教育教授システム開発センター教授を囲んで検討会を兼ねた検討会をFD座談会と銘打って実施した。前日に田中毎実教授のFD講演会があり、比較的参観者数が多かった。また、教科教育法の教員の参加があり、講義者として参考になる意見を数多く頂戴した。

第3回 11月4日(木) 7・8限(14:50~16:20)

場所 基礎教育棟1階 G-103教室

「家族生活と法律——結婚と離婚」について

授業後、検討会を実施した。しかし、参加者が激減し、低調な検討会に終わった。

第4回 11月25日(木) 7・8限(14:50~16:20)

「家族生活と法律——相続問題」

授業後、大山泰宏京都大学高等教育教授システム開発センター助教授を囲んで検討会を兼ねたFD座談会を実施した。

第5回 12月9日(木) 7・8限(14:50~16:20)

「住まいと法律——不動産登記」

授業後、石村雅雄京都大学高等教育教授システム開発センター助教授を囲んで検討会を兼ねたFD座談会を実施した。

第2回・第4回・第5回を通していえることであるが、ゲストコメンテーターの存在は実にありがたかった。ポイントを押さえた指摘をしていただけるばかりでなく、議事進行を実にスムーズにしてもらえた。

初年度に実施した5回の公開授業から得られた成果は次の通りである。6月24日の公開授業はほぼ普段通りの体制で臨んだが、記録を取る観点からは、極めて拙劣であった。すなわち、講義の様子は参観者の記憶のみで、検討会の録音もないため議事録も作成できなかった。従って、2回目からはビデオカメラとカセットテープが必要だという結論になり、さらに、大学院生に記録してもらうことになった。実際、予算の関係上、秋にデジタルビデオカメラを購入し、2回目以降の公開授業を撮影してもらった。その結果、受講態度の悪い学生が非常によくわかり、他人では遠慮して指摘することのできない講義者の悪い癖もわかるというメリットがあった。

また、毎回、授業後、検討会を実施した。第2回からは前述の堀内君に依頼し、カセットテープレコーダーに録音し、議事録を作成してもらった。この公開授業に続く検討会の参加者の存在意義は、授業改善にとって極めて大きいものであるが、専門が同じ教員よりも、むしろ異なる教員の方がさらに存在価値があるように思われる。すなわち、専門が同じであれば、ややもすれば内容にとらわれがちとなるのに対して、専門の異なる教員の場合であれば、授業の仕方、スキル、プレゼンテーションなどに目が行き届き、広い視野でものを見てくれるように思われるからである。従って、公開授業を参観する際、専門が異なるから参考にはならないと考えるべきではなく、むしろより多くの成果が得られると考えて、積極的に参加すべきではないだろうか。また、検討会の議論は教育学や教科教育法の教員が参加している場合はとりわけ収穫大であったと思われる。

なお、公開授業の際は、小テストを実施せず、レポートを提出させた。これは、参観者に検討会へも参加してもらいたいために、授業直後に検討会を実施するべく採用した方策であって、小テストの時間をとれば、検討会の参加者がますます減ると思ったからである。そのため、ほぼ90分講義し続けた。この点について、「長過ぎる。注意力散漫になる。何か作業を入れるべき」と現役の高校教員で和歌山大学大学院教育学研究科の院生でもある参観者より指摘された。公開授業以外の時間と同様に小テストをさせた方が良かったかもしれない。従って、講義60~70分、小テスト30~20分程度が適当ではなかろうか。実際、筆者が後に実施した3回の公開授業では小テストを実施し、全く問題なかった。

3 第6回公開授業以降の振り返り

第6回公開授業以降の検討会の議論はカセットテープレコーダーで録音し、デジタルビデオカメラでも録画した上で、平成12年3月に和歌山大学大学院経済学研究科修士課程を修了した竹嶋直樹君にワープロ入力してもらった。録音状態があまり良好ではないにもかかわらず、文字化していただき大いに感謝している。

第6回 平成12年6月13日(火) 5・6限(13:10~14:40)

科目 「初等体育科教育法」(教育学部専門教育科目)

担当 出原泰明 教育学部教授

場所 教育学部講義棟1階 L-101教室

テーマ 『『わかる』=認識のための教具論』

授業後、京都大学高等教育教授システム開発センターの大山泰宏助教授をゲストコメンテーターとしてお迎えし、検討会を実施した。授業自体はまさに職人芸を見る思いであった。検討会には教科教育法を担当する教員の参加があったため、これまでにない充実したものになった。

第7回 平成12年7月18日(火) 5・6限(13:10~14:40)

科目 「経営戦略論」(経済学部専門教育科目)

担当 吉村典久 経済学部助教授

場所 経済学部講義棟3階 E-302教室

テーマ 「競争戦略論」

授業後、京都大学高等教育教授システム開発センターの田中毎実教授をゲストコメンテーターとしてお迎えし、検討会を実施した。極めて充実したシラバスが配布されており、吉村助教授の熱意が感じられる講義であった。検討会に経済・経営分野を専門とする教員の参加がなかったことが最も心に残った。

第8回 平成12年12月8日(金) 7・8限(14:50~16:20)

科目 「英語初級FⅡ」(システム工学部基礎教育科目)

担当 奥田隆一 教育学部教授

場所 基礎教育棟3階 G-306教室

テーマ 「やってみようかなと思う英語」

授業後、英語担当の先生方を交えて検討会を実施した。参観者数は20を越え、さらに授業後に検討会も実施された。当日は、「笑い話」とTOEICの問題集、英文の手紙を書くこと、そしてエッセイを読むという4つの内容を織り込んだもので、奥田先生流のスピーディで、それでいて適度なテンポで授業を進行させ、極めて豊富な量の学習をこなされていた。一般に、90分授業は時間的に長すぎるが、奥田先生は集中力の途切れる前に違う内容に切り替えるという工夫をすることにより、学生の倦怠感を排除する努力を試みておられたように感じた。

第9回 平成13年1月19日(金) 7・8限(14:50~16:20)

科目 「デザイン情報演習Ⅳ」(システム工学部専門教育科目)

担当 満田成紀 システム工学部講師

場所 システム工学部A棟6階 A-601室

授業後、システム工学部の若手の先生方を交えて検討会を実施した。パソコンを使った演習形式の授業であったが、公開授業にはなじまないものと感じた。検討会でも専門を同じくする教員以外は非常に発言しにくかった。

第10回 平成13年1月26日(金) 9・10限(16:30~18:00)

科目 「精密物質実験B」(システム工学部専門教育科目)

場所 システム工学部B棟4階 B-408室・409室

担当 田中和彦システム工学部教授・大須賀秀次同学部講師

実験であったため、当初より検討会を開催することは遠慮した。教室内の雰囲気判断して、参観者4名全員相談の上、20分ほどで退室した。大人数の講義形式のものが公開授業にふさわしいということを再確認した。

第11回 平成13年6月8日(金) 5・6限(13:10~14:40)

科目 「民法〔親族・相続〕」(経済学部専門教育科目)

場所 経済学部講義棟3階 E-302教室

担当 吉田雅章 経済学部助教授

授業後、検討会を本部共通棟3階共通会議室にて実施した。参観者はおよそ20人、検討会参加者は13人で、25回の公開授業&検討会の中で最も盛会であった。しかし、人数が多ければ良いというものではなかった。すなわち、講義内容とはかけ離れた教養教育と専門教育についてというような議論が飛び出し、議論の方向性が散漫となった。さらに検討会の時間を60分と制限していたので発言できない参加者もあった。

第12回 平成13年6月13日(水) 3・4限(10:50~12:20)

科目 「英語」(和歌山大学基礎教育科目)

場所 基礎教育棟2階 G-209教室

担当 江利川春雄 教育学部助教授

テーマは「映画 de 英語」、授業後、検討会を本部共通棟3階共通会議室にて実施した。江利川先生の元気が印象に残った。この時英語担当者の講義時間がかなりバッティングしていることがわかった。

第13回 平成13年6月29日(金) 5・6限(13:10~14:40)

科目 「民法〔親族・相続〕」(経済学部専門教育科目)

場所 経済学部講義棟3階 E-302教室

担当 吉田雅章 経済学部助教授

テーマは「相続のあらまし」で、授業後、寺沢知子摂南大学法学部助教授をゲストコメンテーターとしてお迎えし、検討会を本部共通棟3階共通会議室にて実施した。寺沢助教授からは貴重なご意見を得ることができ、ゲストの存在が極めて有意義であることを再認識した。

第14回 平成13年7月13日(金) 3・4限(10:50~12:20)

科目 「英語」(和歌山大学基礎教育科目)

場所 基礎教育棟2階 G-209教室

担当 林桂子 教育学部助教授

テーマは「ビデオによる統合的活動」で、検討会は授業終了直後ではなく、2コマ終了後の午後4時30分より本部共通棟4階会議室にて実施した。学生を生々しくさせる講義という印象を持った。

第15回 平成13年10月10日(水) 9・10限(16:30~18:00)

科目 「デザイン情報概論」(システム工学部専門教育科目)

場所 システム工学部A棟1階 A-103教室

担当 河原英紀 システム工学部教授

授業後、検討会を本部共通棟2階特別会議室にて実施した。この公開授業は、NHKより取材があるということで、是非とも公開授業として扱い、検討会を開催してほしい旨本部事務局より直前に強く要請され応じたものである。受講登録も済んでいない時期の授業で講義室は学生で溢れかえり参観者として入室するのもかなり躊躇ったが、結局、通路にパイプ椅子を並べて座った。参観するつもりで教室まで来て学生の多さで取り止めた人も相当数出たように思われる。結局、参観者は山下晃一教育学部講師と竹嶋直樹君と筆者の3人だけであった。実に窮屈な思いをさせられたが、高校生にも開かれた講義で、河原先生の講義内容自体は実に興味深いものであった。

第16回 平成13年10月25日(木) 1・2限(9:10~10:40)

科目 「波動・光」(システム工学部専門教育科目)

場所 システム工学部A棟1階 A-101教室

担当 越本泰弘 システム工学部教授

テーマは「振動の合成と減衰振動」で、授業後、検討会を地域共同研究センター2階相談室にて実施した。朝一番の講義ではあったが、眠気を一掃させるような盛り沢山の内容で、素晴らしいプレゼンテーションがなされていた。検討会にはシステム工学部教員の参加が比較的多かった。

第17回 平成13年11月15日(木) 3・4限(10:50~12:20)

科目 「宇宙の環境」(教育学部専門教育科目)

場所 教育学部講義棟1階 L-102教室

担当 富田晃彦 教育学部助教授

授業後、検討会を地域共同研究センター2階相談室にて実施した。富田先生の授業改善に対する並々ならぬ意欲がうかがわれた講義であった。

第18回 平成13年11月27日(火) 5・6限(13:10~14:40)

科目 「微積分2」(システム工学部基礎専門科目)

場所 システム工学部A棟2階 A-202教室

担当 柴山健伸 システム工学部助教授

テーマは「陰関数とその微分」、授業後、検討会を地域共同研究センター2階相談室にて実施した。飄々とした雰囲気を持つ柴山先生が実にオーソドックスで丁寧な講義をされていた。

第19回 平成13年12月4日(火) 7・8限(14:50~16:20)

科目 「初等社会科教育法」(教育学部専門教育科目)

場所 教育学部講義棟1階 L-101教室

担当 川本治雄 教育学部教授

テーマは「授業における子供の思考——社会認識育成にとっての仮説的推論の意味——」、授業後、検討会を基礎教育棟1階G-113室にて実施した。第2回和歌山大学FDフォーラムの発表者でもある川本教授は実に高いレベルの講義を展開されており、検討会でどのような発言をすべきか戸惑いを感じた。検討会には小・中学校の現役教員で和歌山大学大学院教育学研究科の院生の参加もあった。

第20回 平成13年12月6日(木) 1・2限(9:10~10:40)

科目 「都市計画」(システム工学部専門教育科目)

場所 システム工学部B棟2階 B-203教室

担当 濱田学昭 システム工学部教授

テーマは「わが国都市計画の仕組み：都市計画事業(市街地再開発事業等)」、授業後、検討会を地域共同研究センター2階相談室にて実施した。民法を専攻する筆者にとって、内容面で極めて興味深い講義であり、他の回の講義も拝聴させていただきたく感じた。

第21回 平成13年12月12日(水) 3・4限(10:50~12:20)

科目 「英語」(和歌山大学基礎教育科目)

場所 基礎教育棟2階 G-206教室

担当 亀山幸枝 経済学部助教授

授業後、検討会を基礎教育棟1階G-113室にて実施した。受講生が実にまじめで、教材も非常に興味深いものであった。

第22回 平成13年12月20日(木) 3・4限(10:50~12:20)

科目 「経済刑法」(経済学部専門教育科目)

場所 経済学部講義棟3階 E-301教室

担当 重井輝忠 経済学部講師

テーマは「いわゆる悪徳商法をめぐって」、授業後、検討会を地域共同研究センター2階相談室にて実施した。この公開授業&検討会は「魅力ある大学授業を研究する会」主催で、重井講師は着任初年度であり、非常に緊張したそうである。いわば初任者研修の試行版で、極めて興味深い試みであったといえる。

第23回 平成14年1月16日(水) 3・4限(10:50~12:20)

科目 「財政政策各論」(経済学部専門教育科目)

場所 経済学部講義棟3階 E-302教室

担当 河音琢郎 経済学部助教授

公開授業の参観者は竹嶋君と筆者の2人だけであった。冬休み明け第1週で多くの科目が休講される中、参観者があまりにも少なく、河音先生には誠に申し訳なかった。授業後、検討会を経済学部講義棟2階の演習室(E-205室)にて実施した。たった3人の検討会ではあったが、それなりの成果は得られたように感じた。

第24回 平成14年1月23日(水) 1・2限(9:10~10:40)

科目 「英語」(和歌山大学基礎教育科目)

場所 経済学部講義棟1階 E-105教室

担当 遠藤史 経済学部助教授

授業後、検討会を地域共同研究センター1階多目的研究室にて実施した。朝一番の講義で、遅刻がちらほらあり、経済学部生の時間に対する感覚が気になった。遠藤先生の講義は丁寧で人柄をしのばせるものがあった。平成13年度の公開授業&検討会の最後で、検討会の運営にもやっと慣れてきたかなと感じた。

第25回 平成14年7月5日(金) 1・2限(9:10~10:40)

科目 民法[債権総論](経済学部専門教育科目)

場所 経済学部講義棟1階 E-101教室

担当 吉田雅章

テーマは「債権譲渡と債務引受」で、検討会を地域共同研究センター1階の多目的研究室で11:00~12:00に開催した。第24回までは全学教員に周知徹底する方向で臨んだが、その効果はほとんどなかったのも、この時は学長・副学長とFD推進委員会委員および「魅力ある大学授業を研究する会」メンバーだけに連絡した。

なお、この時間は教育コンテンツ作成管理会議の業務の一環としてビデオ撮影がなされ、その映像を2回見る機会があった。筆者自身の平成11年度に実施した5回の公開授業もビデオで撮影しており、その当時に比較して講義テクニックの向上を感じた。

公開授業&検討会は当初、全学の委員会であるFD推進委員会による組織的活動としていたが、徐々に、研究会活動に変わりつつある。また、その方が内容的にもより良いものになるであろう。PR紙としての「FDだより」や立て看板、電子メール、教授会での呼びかけなど、あらゆる手段を用いて参加を呼びかけたが、研究会メンバー以外の参加は伸びなかった。いわゆる「一本釣り」の方がはるかに効果的であった。また、検討会参加者の人数が少なくともあまり苦にならなくなってきた。これも公開授業&検討会の運営が軌道に乗り始めていることが大きな原因である。

すなわち、検討会議論の内容や問題意識がおおむね次のように変容してきている。最初は「とにかく実施しようではないか」という状態であったが、現在では「実りある活動であるために検討会をどのように実施すべきか」ということに論点が収斂してきている。たとえば、出原泰明和歌山大学教育学部教授(平成14年4月名古屋大学に転出)は、検討会では常に講義案あるいは教案作成とその充実を訴え、毎回の講義の中で学生に何を伝えたいかを明確にしておくべきことを繰り返された。また、川本治雄和歌山大学教育学部教授は、「発言録を中心にして年間の集録が行われ

ているが、授業の展開を取り入れたものを重視してはどうか。魅力ある授業を創るという趣旨からしても、どのように授業を展開するかと言うことが、他の構成員に伝わらなければ、集録の価値が半減するように思う。たとえば、前回ならどのように授業展開がなされたかが認識されないで、発言を読んでも、授業を見た人のみのそれも個人的な観点によって評価が分かれるように思う。どちらかがいいのではなくて、民法における条文の意味を3回にわたっておさえることの意味は、目標をどのように設定するかに関わっている。従って、授業における『事実』を確定することが、共通の論議を展開する土台になると思う。このためにも、授業記録をどのように取り、表現するかは重要な取り組みであり、ビデオなどの記録も、後ろからだけ取るのではなく、学生の取り組む姿や、表情等も見ることがある。大学の講義室における参観の仕方や位置（どこから見るか）も、論議されていいのではないか。」以上のような発言は25回の公開授業の蓄積が徐々に開花しつつあることの証左ではなからうか。

さらに、山下晃一和歌山大学教育学部助教授は『平成13年度和歌山大学FD報告書』の中で「高等教育機関における Faculty Development の学校組織論的考察——和歌山大学FD活動の今日的到達点と課題——」と題し、公開授業後の検討会について精細に分析した上で、「大学授業分析の方法論的探求・蓄積・共有」の必要性を強調されている。この点は今後の公開授業&検討会に残された課題であり、その解決には両者に常時出席する固定的なメンバーの存在を必要とする。これまで25回の公開授業が和歌山大学でなされてきたが、筆者のみがそのすべてに出席しているにすぎず、10~12回程度の人がほんの少数という状態である。今後はすべてとは言わないまでも、かなりの回数出席してくれる教員も出てくるであろう。語弊があるかもしれないが、相当数の「常連」ができてはじめて授業分析の方法論の話し合いが可能となる。実際、先に言及した「魅力ある大学授業を研究する会」がその役割を担ってくれるものと考えている。

4 むすびに代えて—分析と検討

和歌山大学では積極的にFDを推進するため、講演会・シンポジウム等の単発的なプログラムの開催だけでなく、ある程度継続的なプログラムとして公開授業とその検討会を開催している。このFDの具体的活動項目の中で最も重要なものの一つである公開授業は、模範講義を提供することが目的ではなく、授業改善に極めて有意義な検討会の議論の材料を提供することを目的として実施している。

最近では公開授業を実施する大学が相当増えており、正確な数字は把握できていないが、国立大学で平成13年度実施した大学は少なくとも13はある。その多くは参加者が少なく、主催者が孤立感を感じるというケースが目立つという。そのような中、平成13年度和歌山大学では当初11回の予定が、のべ14回に上る公開授業を実施することができた。参加者数は決して多くはないが、公開授業を担当していただいた先生方からは「やって良かった」という声が多く、その点においては安堵している。

そして参加者数はずっと低迷したままであるが、PRとの関連性は薄いように感じている。とりわけ検討会の参加者が、公開授業の参観者に比較して激減する。多忙な中、公開授業を参観するだけでも時間の遣り繰りが難しいと言われるかもしれないが、公開授業の参観だけでなく検討会まで参加するとその効果は飛躍的にアップすると思われる。ただ、公開授業の参観者で検討会は都合のため欠席せざるを得ない教員については感想や意見を記入していただく用紙を配布することが非常に重要であろう。

本稿をまとめるに当たって、公開授業の観点から和歌山大学のFDと筆者自身の授業改善を簡単に分析・検討する。

まず、和歌山大学に関して表面上、組織としてのFD（トップダウン方式のFD）は成立している。これは平成10年度から平成12年度までの学長・学生部長・学生課の事務職員の人的・経済的バックアップの賜物である。（しかし、平成13年度は教務課のバックアップはほとんどなく、極めて重大な手続き上のミスもあった。平成14年度は教員グループで活動し、事務的手続きは会計課と学部事務部にお願いする予定である。というのは、平成14年度になっても教務課の不可解な事務・委員会決議に反する行動があったからである。教員の資質向上は当然ではあるが、事務職員の資質向上も必要なのではなからうか。）

なお、大学として実施したFD活動の参加者数は依然として低迷している。横の広がりには欠けるのであって、平成14年度FD推進委員会は15名ではあるが、増やしたからといって改善するものではない。なお、学内のすべてのイベントについて教員の参加が少なく、以前より「教員は動かない」という陰の声が存在することも事実である。

また、自主的に授業改善に取り組む若手(個人的な授業評価、ボランティアの学生指導など)を耳にすることができた。ただし、これに反して年配の教員の講義で非常に評判の悪いものが少々存在することが気になる。

公開授業&検討会の今後の実施については次のように計画している。すなわち、従来より基礎教育科目において実施されていた学生による授業評価以上に、公開授業とその検討会が授業改善に有効ではないかという方針を打ち出し、FD推進委員会を中心に25回の公開授業を実施した。そして、同委員会を中心とするトップダウン方式のFDだけではもちろん不十分であり、さらにその限界も存在する。そのために、以前よりFD推進委員会の活動に協力的な教員を中心に同志を募り、従来のFD推進委員会で行いきれない活動を展開してゆく目的で、新しい研究会を構成し、ボトムアップ型のFDも展開することを試みている。「魅力ある大学授業を研究する会」は、FD推進委員会委員と英語担当教員とが大多数を占めており、公開授業と検討会を通じて魅力ある大学授業を研究することを目的とし、平成14年度はFD推進委員会に代わる組織にし、13回の公開授業を実施する予定である。

筆者自身は本稿執筆時点で8回の公開授業を担当した。公開授業の担当者として、すなわち、講義者の立場から分析・検討をする。

まず、公開授業のために初めて「教案(講義案)」を作成した(もちろん、以前も自分の頭の中では作成してはいるが)。この「教案」は一長一短があって、長所は言うまでもなく構成のしっかりした授業を展開することができることであるが、短所としては、「教案」に縛られ過ぎるように思われ、学生の理解度に応じて説明を変えるという柔軟さを発揮させにくくなるということをあげることができる。

次に、公開授業を担当したことを契機として内容面で授業改善に工夫した点をあげる。第1に、できるだけ身近なテーマを選択することを心がけたことであるが、学生と参観者である教員とで、テーマの好みはかなり異なることがわかった。第2に、通俗的な内容も取り入れるようにした。弁護士報酬・登記費用・相続税など、通常、大学の講義ではめったに取り上げられないことも説明した。とりわけ自動車事故を取り上げた講義は、自由記述のアンケートによれば非常に評判が良かった。第3に、具体的でわかりやすい教材を選択するようにした。第4に、小テストの工夫であり、その日のまとめとしての小テストと、次回へのつなぎとしての小テストの2種類を使い分けした。第5に、優秀な小テストを翌週に印刷して配布し若干の解説を加えた。これは、答案の模範的な書き方がわかったと受講生には好評であり、これで少しでも講義者と学生との双方向性を確保できたのではないかと考えている。

最後に、事務職員の協力について言及する。平成10年度から12年度にかけては学生課の事務職員の方々に非常にお世話になった。参加者が少なくて挫折しそうになったときも叱咤激励していただき、もしも彼らの協力がなければFD活動の継続は不可能であったように思われる。しかし、その学生課が教務課と名称変更した平成13年度からは担当職員がそっくり入れ替わり、従来「学報」にすべて掲載されていたFD推進委員会の活動の大半が掲載されておらず、公開授業開催をはじめとするFD活動の展開にさまざまな面で大きな障害となった。FD活動としては4年目を迎えていたので少々の困難も苦にできなかったが実に迷惑であった。今後はできるだけ事務職員に依存することは避けるのが良いのではないかと考えている。

参考文献

京都大学高等教育教授システム開発センター編『開かれた大学授業をめざして——京都大学公開実験授業の一年間』

玉川大学出版部、1997年

京都大学高等教育教授システム開発センター編『大学授業のフィールドワーク——京都大学公開実験授業』玉川大学出版部、2001年

京都大学高等教育教授システム開発センター編『大学授業研究の構想——過去から未来へ』東信堂、2002年

日本私立大学連盟編『大学の教育・授業を考える 1 大学の教育・授業をどうする——FDのすすめ』東海大学出版会、1999年

田中毎実・大山泰宏・石村雅雄・溝上慎一「共同研究/京都大学における公開実験授業の成果と課題」『大学教育学会誌』20巻2号、1998年

田中毎実ほか「平成12年度公開実験授業の記録」『京都大学高等教育叢書10』、2001年

和歌山大学FD研究会『平成10年度和歌山大学FD報告書』、1999年

和歌山大学FD推進委員会『平成11年度和歌山大学FD報告書』、2000年

和歌山大学FD推進委員会『平成12年度和歌山大学FD報告書』、2001年

和歌山大学FD推進委員会『平成13年度和歌山大学FD報告書』、2002年

和歌山大学・魅力ある大学授業を研究する会『平成13年度和歌山大学「大学特別経費」研究報告書・公開授業と授業改善』、2002年

吉田雅章「和歌山大学におけるFD——FD後発校における暗中模索——」『IDE——現代の高等教育』No.412、1999年

吉田雅章「FD活動と『PL法』」『経済理論』295号、2000年

吉田雅章「和歌山大学におけるFDの実践報告」『京都大学高等教育研究第6号』、2000年

吉田雅章「公開授業『日々のくらしと法律』と授業改善」『メディア教育開発センター研究報告第21号』、2001年

吉田雅章「法学教養科目における授業改善」『経済理論』302号、2001年

吉田雅章「組織のFD活動と個人の授業改善」『京都大学高等教育研究第7号』、2001年